

中高生が生物研究発表



審査員を前にポスター発表をする参加者=つくば市天王台の筑波大

つくば

来夏の国際大会盛り上げ

23校から166人が参加

来年7月に第20回国際生物学オリンピック(IBO2009)が、つくば市の筑波大学で開かれる。これに向けた関連イベントで、中高校生による生物学研究発表会の「つくば生物研究コンテスト」が24日、筑波大で開かれた。

IBOは生物学で優秀な学生を集めて才能を伸ばし、将来の生物学者を育てるのが目的。IBOが国内で開かれるのは初めてで、7月12日から19日まで

の8日間の日程で開催される。IBO2009の日本代表選考を兼ねた全国規模の生物学コンテストとなる「生物チャレンジ」が7月から開始。20歳未満で大学入学前の青少年が対象だ。第一次から第三次試験があり、来年4月ごろには4人の日本代表を決定する。

今回のコンテストはIBO2009を盛り上げるため、IBO2009組織委員会と筑波大などが開いた。県

内や近隣の中学、高校から23校166人が参加し、28テーマのポスター発表をした。生物学に興味を持つ生徒同士の交流の場にもなった。

発表者は緊張しながら真剣な表情で、これまでの研究活動結果について、審査員の筑波大関係者らに説明。審査員はそれぞれの発表を聞き、目的の設定と方法の選択をはじめ、研究内容の新鮮さや独創性、まとめ方と表現力などのポイントで審査した。

審査の結果、金賞には佐野日高の「木材の組み合わせによる動きの研究・松かさの動きの応用」と水戸一高生物同好会部の「シラカシ林におけるアキノ

ギンリョウソウの菌根の形態と菌類の子実体の空間分布」が選ばれた。

ポスター発表のほか、昆虫ロボットの研究で知られる東京大学の神崎亮平教授とテレ

ビ番組「世界一受けたい授業」の講師をして、いる科学ジャーナリストの赤池孝氏が生物学の面白さや昆虫の素晴らしさについて講演した。

(齊藤聡)